



季寄
註解
改正月令博物考
三夏部
四





夏部目録
△印は夏三月の
 本字は夏のみ
 ○夏の天氣。占候。養生法等。凡そ夏

夏時令
此部は夏三月の
 時候のりりごと

△夏日
三十一

△夏月
夏の霜
 三十一
 △夏曉
三十一

△夏朝
三十一
 △夏夕
△夏暮
 三十一

△夏夜
三十一
 △夏山
三十一

△夏野
三十一
 △夏川
三十一

△暑
△涼
 三十一

夏艸木
此部は夏三月の
 草木のりりごと

△夏草
三十一
 △夏木
△夏木立
 △夏木
 三十一

△夏柳
三十一
 △夏楠
△夏楠
 三十一

△夏茶
三十一
 △夏椒
三十一



△芍薬 七下 △西園菊 七下

△苦草 七下 △菰 七下

△蓼 七下 △藜 七下

△根芋 七下 △蓴菜 七下

△海松 八下 △水草の花 八下

△夏生類 此部より夏三月より夏のついでにのついでに

△蚊 八下 △蚊遣火 蚊火 八下

△蚊柱 九下 △蟻 九下

△蟻 九下 △蚕 九下

△螢 九下 △子子 十下

△蝸牛 十下 △蛞蝓 十下

△夏鷹 十下 △鷹鳥屋籠 十下

△鶴 十下 △蠅虎 十下

△蠅 十下 △鶺鴒川 鶺鴒川 十下

△青鷺 十下 △通鴨 十下

△魚 十下 △胡鱈 十下

△水鱧 十下 △水鱧 十下

△干鱧 十下 △干鰻 十下

△洗鱸 十下 △鱸 十下

△鯪 十下 △蟹 十下

△鹽鳥賊 十下 △魚菜 十下

△夏雜 此部より夏三月の種々 乃 雜事をのついでに

△短夜 明安夜 蚊帳 蚊屋 十下

△扇 伏翼 十下 △團扇 十下

△日傘 十下 △編笠 十下

△夏断 夏書 夏経 十下

△安居 十下 △夏書 夏行 十下

△新麥 十下 △麥 十下

煮冷汁

麥飯

九下

麥粉

木布

九下

草物

汗衫

九下

汗巾

汗手拭

九下

必用

此部より夏三ヶ月の入用のこと

夏養生

夏天氣

九下

夏風

夏雲

九下

夏霞

九下

夏時令

此部より夏三ヶ月の時の物のこと

夏日

方夫木

為家

日ふるびくさうの風をさしと

連白雲不照そく夏は白紙に宗紙

詩 夏日五字對句

九天鑪焰暖

避暑得深幽

六月玉聲寒

忘年遂久留

詩 夏日之詞

明 黃氏

深究塵消散 午炎篆烟如

夢晝淹々

奥フカキ殿院ハ各別 涼シク奇廉ニシテ塵

埃モ消散レテ暑 輕風似與荷

花約為送香來自捲簾

くト吹風ハ荷ノ花ト兼約アリテ花

クタメニ吹タルヤウニ オモハルトナリ

夏月

夏の霜もつら
新古今 頼政

庭の面もよこからぬ夕ぐさの
そとをけさくすめる月う那

夫木

為相

待出 澄山の木れる後りありて
うをまきくあり月の夜二那

千五百番奇合

後京極摂政

静の雲けくけり やくやまを
まのよけり山乃こゝの月

夫木

定家

たをねくもぬ川のさるんふ
ふゆふとありて夏月う那

家集

夏夜曉月

仲正

かりそめけくすくさううなくねよ
ちてあり明の月然んるう那

詞月そかきく 杖とまきこてきて
ありの明やまを 神心清を杖

けりさくぬけり 杖もまきこ
まき。杖はかき衣すし思ひけ

清あ。雲のつろこ ねまをねす。後
き明ふ。なふすしく。夏月う那

安き。月を極もまき。はげしき
まき。み。まき。す。す。

連 文くまね老いすし月夜 昌叱

排 夏月夜をまきすて二百五 其角

晴 づやまをまき夏を交れ月 芭蕉

狂 ずの夜のつろこ 押し色里ふ

うまきくも砂の月う那 素桐

○夏の月ハさききうけを哥も
よむ事おまき月のかを霜に見

たて夏の霜も云 詩 白樂天

月照平砂夏夜霜 世詩朗歌集

唐詩選

李白

牀前看月光疑是地上霜

詩 七字對句

詩礎

涼月照枕歌窓倦 水偏清

澄泉繞石泛觴邊 松下涼

山徑晚雲收 足涼風

山徑晚雲收 足涼風

山徑晚雲收 足涼風

山徑晚雲收 足涼風

水門涼月挂漁竿 孤月涼

夏曉

夜の明くことつくり
續後撰 定家

的れありゆつるあはれあつあ
れのまにも似ぬ夜を待て

夏朝

夜明ともしも明て後見云
玉葉 雅有

まらうればはよの暮いづげこ入て
あつるささあつる影を待たぬあ

夫木

夏朝

為家

夏とあさこゝあさくはこゝろ
ふさこ味しとわあけ乃を

夏夕

△夏 玉琴 俊頼
暮 松をふ夕涼をす

浦人の心もあはれをみちけり
蚊いあはれせむらぬ夕多道す

夏夜

△夫木 入道撰
友の池の汀よりす

かろく火の光も涼一々やのそ
六百番哥合 後京極撰政

うらぬの暑よりさぬあつれ
ふやうきす一あつれそ

同 夏夜短 定家
夏のよいさうあつれあまう

むらやあつれあつれあつれ
詞考も涼し。あつれあつれ

のかが火蚊をう火風涼し。あつれ
らふ極もあつれあつれあつれ

月ものころの蚊の声。あつれあつれ
俳 夏夜短はあつれあつれあつれ

あつれあつれあつれあつれあつれ
あつれあつれあつれあつれあつれ

詩 夏夜五字對句

簾涼清露夜

山露侵衣潤

琴響碧天秋

江風捲簾涼

詩 夏夜七字對句

詩 礎

池邊命海憐風月 囊翠幃

浦口回船惜菱荷 水亭閑

湘水魚鱗冷 簟文博山爽

篆罷鑪薰 魚ノオドルケシキヲ

開牖對影 景延新月

坐愛金波洗火雲 月ニ對シ

夏山 龜山百首 了雄

夏山の意をこぼさず 宿りてとて

夏山や甘き山 鳥山 惠

詩 夏山五字對句

山樹含斜日 秀木涵秀色

池風泛早涼 奇峯出奇雲

詩 同七字對句 詩 礎

幽谿鹿過苔還靜 夏雲端

深樹雲來鳥不知 冷溪山

夏野 里人 為尹

夏の意をこぼさず 宿りてとて

夏川 古 新

涼いさ秋やかひく 初瀬川

夏時令

俳 月夜梅はけり 浅草川 百巻
夏川の青い空の青い水は 重五

暑 暑氣 六月 六月 六月 六月

又 同一事なり 涼 一 哥連
俳 六月の部 廿三丁目 又出

夏草木 此部 夏三月 又出

夏草 新古今 藤原元真
玉汗の乃ひく 八もむまふ 又

詞 志ある。さびを。りる。ぬ
かた 山 人の往来。谷のけま野
草のそよ 群鳥が 庭へ。草むす
分迷ふ 庭かまふ。今もあ。あ
ゆき。あひる 庭へ。あひる。あひる
螢志の 風吹く。あひる。あひる
あひる。あひる。あひる。あひる

今日 虫のあひる 里人 結ぶ

運 武蔵のあひる 民のあひる 宗因

俳 夏草のあひる 妙の吉狐 一石

夏木 夏木立 若葉紅葉 結
若葉 嬾葉 山 院

玉葉集 院

松のあひる せも 別色 さらり

俳 菱畑の結ぶ 山 院

夏木五字對句 院

拂曙携清賞 緑樹溪邊 冷

披雲坐緑陰 清山郭外 斜

詩 全七字對句 詩礎

漢々水田飛白鷺 日月昏

夏 草木 夏ノ六

陰々夏木 轉黃鸝 僧院深

斜陽映閣山當水 樹松雲

微綠含風 樹滿天 水殿開

詩 夏木之詞 唐 王昌齡

綠樹重陰 蓋四隣 青苔日厚

自無塵 夏木立 科

頭箕踞 長松下 白眼看他世上

人 合々人ノ外ハ交ラ

夏栢 △葉柳 秋夕

神 萬葉に佐宿木花とあり

新勅 重政

栢の栢とねもあつはく

栢の栢とねもあつはく

青秦椒 巴椒蜀椒 但州朝

甚美多丹波丹後 其枝を

州津輕の産大 氣味勝る

山椒小 時妙術 灰を

甜瓜 又男をれ 女のゆあ女

袖山椒 所々稀 枝葉

山崖椒 葉大キ

細花 実長 味美

春葱 初生針 酢醬

夏七
馬齒莧 警擲草。警擲草

馬齒莧 金非稟。和名。まじり草

能た。まじり草。味り馬。馬。左

妙術。まじり草。家の軒。掛

置。た。馬。虫。其。地。膚

家。入。す。と。つ。苔。草。ころか

へ。と。り。く。人。落。数。冬。花。の

七月。花。さ。く。春。さ。く。こ

蓼。七。種。あり。紫。赤。青。香。

馬。水。木。蓼。多。り。播。州

津。田。穂。蓼。と。出。て。藜。苗。と

年。中。穂。あり。と。つ。藜。苗。と

あ。り。の。う。て。く。く。さ。り。莖

の。成。長。し。と。り。の。と。杖。と。す。守

根。芋。和。名。い。も。か。う。一。云。い。り

煮。て。喰。人。剥。皮。乾。し。も。可。く

蕪。菜。嫩。莖。未。く。葉。あり。と。る。物。と

稚。蕪。と。い。ひ。穠。の。い。長。ど

ふ。者。と。絲。蕪。と。い。ひ。秋。ま。と。う

老。う。り。の。と。葵。蕪。と。名。づ。く

海。松。水。松。状。ち。松。の。ま。と。く

い。て。葉。さ。し。食。用。と。す

考。未。知。は。の。東。北。風。ふ。り。ぬ。る。の

う。り。く。海。あり。の。や。北。里。定。家

連。次。こ。ぬ。と。ま。り。と。海。に。つ。風。肖。相

非。ころ。ふ。さ。波。は。ひ。り。つ。螺。貝。其。角

よ。の。海。の。海。の。意

水草の花

連。あ。き。り。の。水。ま。も。流。の。外。宗。祇

非。あ。き。り。の。水。ま。も。流。の。外。宗。祇

夏。生。類。此。部。に。夏。三。月。の。あ。る

蚊。異。名。白。鳥。暑。蟲。唐。土。嶺

南。蚊。子。木。有。葉。冬。青。の。如

く。実。枇。杷。の。じ。熟。と。る。時。に

蚊。出。と。つ。つ。の。又。塞。北。は。蚊。母

草。あり。葉。の。中。小。血。虫。あり

此。い。し。化。と。蚊。と。る。と。つ。つ

の。又。江。東。は。蚊。母。鳥。あり。蚊。と。吐。く

非。は。い。あ。く。蚊。い。あ。く。蚊。い。あ。く

夏 生 其 角

蚊と煙や塵蚊のさめ云 其角

狂 けふのさめ蚊のさめ云 其角

白鳥向炎時管々應若鐵 昼ハ

カクレテウヘ進身因暮夜得志入

嘔吸吾方困飛賜汝自嬉 吾等

風一朝至倏忽竟安之 秋風

蚊遣火 蚊火もつり

蚊の多く集ると云 蚊

蚊柱 蚊の多く集ると云 蚊

水蛭 水中にあり草蛭

蛇 蛇子。蝮子。山中。非 張袋の

新螢。山螢。流螢。異名 丹

鳥。夜光。霄燭。丹良。

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

暉夜燐。夜半螢。熠燿。

⑧ 夫木 知家

井の初風ふやうるるるるるるん

こほきてこほぬまのほゆ

室治首首 水邊堂 頼氏

くれあけのあつらきいけの

みくらりらららららららららら

家集 海辺堂 清浦

そぬ風ふるいこのまほけさありそ

とぬまぬあいやらららららけり

夫木 樹下堂 隆祐

とら河うそいやあそあくらせみ

くく秋かたまひりらけ

夫木 棟堂 俊頼

あつらふやうるるけのあつらそ

たらりらふのこまららららら

家集 螢火乱風 仲正

風あけいあつらふらららららら

ふのあつらふららららららら

常盤井首 螢照細流 仲正

あつらふららら河をららららら

こほのゆいさうさの仲ふ

家集 河辺見堂 好忠

ひら木のかもあつらららららら

さあつらつらつらつらつらつら

長久哥合 漆河堂 経信

いさう火の浪るららららららら

そあつらつらつらつらつらつら

同行路堂 経信

ゆえねはらららららららららら

まらららららららららららら

同 古寺堂 経信

今そあつらつらららららららら

そらららららららららららら

夫木 螢火透簾 寂蓮

あつらつらつらつらつらつらつら

後拾 沢堂 公雄

あつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

玉葉 叢同堂 左大臣

あつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

夏

生類

夏十

夫木

江螢

家長

かまきりぬまきし小舟とれくる
うえのゆるる敷そけひゆく

夫木

燐螢

光俊

日くらぬ神の港をゆくわら
こりぐせりひのややみかん

拾玉

螢火違簾

慈鎮

朝をくはくふ暑のすたけけ丹
きふおごまのこころけせり

詞

歌てくれひう。ゆゆる。サハ
花ぶ。さぬはゆね。けらぬあひ

らるる。月月ふきこころ。暁うげ
うらさ。夕中ふそとては。夕の

風みだる。夜涼くゆゆる。うく玉
の雲。よひの雲。夜ふもゆる。夜

をてりゆる。きき井小舟。やの
上すていねづくい。雨あけひさね

み月あ。霧。秋中ひ。あひまう。み
本法。草。きこらてきこ。まひすこ。

茶

茶葉はこころ。茶はあけさの茶

茶葉あひゆる。水草あきふあひ
こころ。こころ。こころ。こころ。こころ

きりあひすづく。声のなき風
こころ。きりあひすづく。あきふの

りこひりゆる。陸芽あまぢふすこ。
竹。亦の茶風ふこころ。異竹の

茶こひりゆる。世あきふの茶あひ
風ふこころ。未茶はこころ。玉

茶あひ。こころ。なま。人あひ
あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。あひ

こころ。野。野。野。野。野。野。野。野

茶あひ。海。海。海。海。海。海。海。海

柳。あき。あき。あき。あき。あき。あき

水。水。水。水。水。水。水。水。水。水

河。河。河。河。河。河。河。河。河。河

橋。橋。橋。橋。橋。橋。橋。橋。橋。橋

生類
十一

窓もどけりたきびの
えんまよせて
まきててしな竹灯
秋萩うらさ
秋の意のよめるを
あはれかたのま
あはれかたのま
あはれかたのま

④ 蓮花をよそそけり流るる
昌黎
蘭山の乃れあふふも
さうるる昌黎

⑤ 川隈やあはれ二重のや
る垣其角
君来も色笹の葉乃
取掃ひ言水

⑥ 暎ひ子のほく
枕ひやうるる
あまふまをこ
花よさう那流水

⑦ 枕ひやうるる
ふあする力りる
昔蛾
狂者流くそ
あまをそと
あまをそと

⑧ 曉黄わひ
あまをそと
あまをそと
あまをそと

⑨ 詩 螢五字對句
あまをそと
あまをそと
あまをそと

⑩ 詩 江海呼窮鳥
鳥從烟樹宿
あまをそと
あまをそと

⑪ 詩 書問聚螢
螢傍水軒飛
あまをそと
あまをそと

⑫ 詩 人七字對句
詩礎
あまをそと
あまをそと

⑬ 水調揚花歌九曲
照前流
あまをそと
あまをそと

⑭ 江邊螢火入燕巢
水上多
あまをそと
あまをそと

⑮ 荒簷數蝶懸蛛網
弄琴晝
あまをそと
あまをそと

⑯ 空屋孤螢入燕巢
寄水流
あまをそと
あまをそと

⑰ 詩 螢火之詞
杜甫
あまをそと
あまをそと

⑱ 幸因膏草出
敢近大陽
あまをそと
あまをそと

⑲ 足臨書卷時
能點客衣
あまをそと
あまをそと

⑳ 隨風隔幕小
帶雨傍林微
あまをそと
あまをそと

㉑ 清霜重飄零
何處歸
あまをそと
あまをそと

㉒ 頃ニハイツクヘ往
ヤラシレヌツ
あまをそと
あまをそと

十月
霜ノ

映水光難定 凌虛體自輕

水面ニモカゲツク光イツレノ処
ニ定メ難ク虚ヲ凌ギ高クトヒ
ユクツノ体自
然トカロレ

露洗還明 夜風吹不滅秋

アタレ氏昧カラス
却テ明光ヲ倍ス
火ハ滅ヘス夜露
風フケル螢火ノ燈

燭投書更有情 向燭仍藏

クヲカリニテ書ヲヨムニハ
少シクタヨリニナルナリ
火ニムカヘバ
光ナケレドモ
猶將

流亂影來此 傍簷楹

影ノ簷クチヘ楹
ニツフテウツルナリ

故國無心渡海潮 老禪方丈

コクム心ニテ多クハ
故國無心ニテ海潮ヲラセシム
禪方丈

倚中條 夜

コルチヨ
ナニノ一モナク故郷ヲ
出テセシヲ子リテナル
夜

深雨絕松堂 靜一點山螢照

深雨絶松堂
静一點山螢照

寂寥

夜アメヤミ禪室ヘテラレ
クルホタルスニトシタア

故螢

フクロニエリテレコブテラス
晋ノ車胤ハ
博覽多識

ニシテ書ヲ讀フヲ好ム家貧
シテ常ニ油ヲ得ルヲ得ズ
夏ノ夜螢ヲ集メテ箱ノ囊
ニ入レ盛リテ昏ヲ照シテ讀テ
ルト
務成子螢
ナリ

漢ノ劉子南其方ヲ得テ調
合シテ佩ケルニアルトキ虜ト
戦フテ圍メレケルトキ矢ノ来
ルヲ雨ノ如クナリシカ劉子南カ
馬ヨリ五六尺バカリニナレバ其
矢地ニ墜テ子南ニ中ラズ傷
ナカリシ故虜ノ兵モフシギニ
思ヒ神ナリトシテカコミヲ解
去リシ
一名冠將丸
又武威丸ト
トナリ

螢火丸
一名冠將丸
又武威丸ト
トナリ

モ名ヅク螢火 鬼箭羽 疾藜
各一雄黃 雌黃 兩 殺羊角 性ヲ

存ス 樹石 二而 鐵鐘柄入鐵處
燒魚 共ニ未ト為シ雞子黃丹

雄雞ノ冠一具ヲ以テ和シ搗チ千
下。丸シテ杏仁ノ如ク三角ニシテ

絳囊ニ五丸ヲ盛テ左ノ臂ニ
帶テ從軍腰ノ中ニ繫レハ五

兵白ヌヲ辟ク家戸ノ上ニ掛ケ
ヲケバ盜賊ヲ辟ク又能ク疾

病惡氣百鬼虎狼咬
蜂 蠶 諸毒ヲ治ス

江州石山寺小あり此谷の螢常
の螢火は倍と毎年芒種五月の節

此後五日夏至五月の明の後五日に
至リ十五日の間と盛リ寺北の

橋をかきり東ハ川をかきりて
曾て外ふあり此時節過る時

ハ宇治川又至る此所ハ夏至小
暑六月の間と盛リと然共

瀬田の多とふ志が俗ハ
頼政の亡魂化して成と云

草化 成 禮記 有

螢火虫 百枚 雲母石 二枚 共ハ
研リ末トシ是を筆ハシ

書て何ふてもひらうを現さんと
思ハ画の上ニ操るハ一ツサ

マ五月の月の内日の晩光
と現等十二次五月一年の間光有

子 蛭 蠅 蝨 蚤 釘 倒 貴
此虫化して蚊とあり

蝸牛 蝸 蠃 蝸 蠃 蝸 蠃 蝸 蠃
蝸牛 蝸 蠃 蝸 蠃 蝸 蠃 蝸 蠃

牛 蝸 蠃 蝸 蠃 蝸 蠃 蝸 蠃
名の註 蝸牛ハ蝸ト云フ

行心の蝸輸売とひのか
とふてなありありと云。山蝸

ハ山あり尺余ありのあり
蝸蠃と売とてとてと云

躰あり。蝸蠃ハありと云
ひとてつうゆくとていふと云

そのおろくあるていまり。土
牛のほのゆるゆる

⑤ 夫木 木

牛け子ふゆまうるを産のたつり
角あれいこく身をそいたのこを

⑥ 蝸牛角 牛角より多くはひめじき

⑦ 蝸牛 牛角より多くはひめじき

⑧ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

⑨ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

⑩ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

⑪ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

⑫ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

⑬ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

⑭ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

⑮ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

⑯ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

⑰ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

⑱ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

⑲ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

⑳ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

㉑ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

㉒ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

㉓ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

㉔ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

㉕ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

㉖ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

㉗ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

㉘ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

㉙ 蛞蝓 附蝸土蝸鼻

八十うら川の文雲乃とて

同 舟蓮法師

うかい取る敵子こそ種なれや
終なきゆくかろ火のうき

夫木 光俊

は川ぬ小夜ふゆわじ桂人
うまひもいふまればんくひく

拾遺愚草 雨後鶴川 定家

うかい舟村取とてうらと火ふ
雲智の星乃くひとあそそく

草根 遠近鶴川 慈鎮

うら川のせむは足代本うら舟
あられもやもる桂のしま

詞 夜川の篇 夜川舟 舟務

川うら火くひなる。うらとて

うら敵子こそ 羊 務川のうら志

ゆの雲 舟火 とうらうら火か

ます。敵うら。波をく。うら舟

かろく魚 務はくうまひ。さいく

うまひ。かづく務子敵。舟敵。か

とこる。うら。うら。舟。舟。舟。

う長中ひ。うらひのまねはどく
夜。月をいふ。雲中。松ま。雲川

世志くぬ。務舟き入。夕舟。夕日

のとそと。月く。とそ

俳 務の形小舟。舟て。表き。荷号

務小舟。一里。舟。雲の松。其角

古灯。務。舟。舟。舟。舟。舟。舟。

狂。務。舟。舟。舟。舟。舟。舟。

春て。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。

蘭室

青鷺 蒼鷺。和名。とそ
き。此頃。肉。甚。美。

通鴨 水鳥。凡。春。古。築。又
く。く。く。其中。池中。又

残。是。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。

る。居。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。

鮎 異名。年魚。細鱗魚。銀口魚。
夫木 衣笠内大臣

あ。う。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。

ん。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。

① 浦川。宇治川。玉川。夏川。とや散。たるき池。沃水。ひみ。水車。名。深。

② 山。の。勢。方。鮎。松浦。て。安成。

③ 狂。は。く。し。も。何。の。せ。じ。は。の。あ。れ。ん。

④ 生。破。と。も。又。あ。ら。ふ。と。り。満。水。

⑤ 故。鮎。日本。紀。神。功。皇。后。鮎。前。于。島。小。河。小。鮎。を。

⑥ 梅。豆。羅。国。と。い。ふ。今。松。浦。と。い。ふ。誤。

⑦ 釣。多。ふ。づ。じ。き。物。と。其。所。を。

⑧ 胡。鮎。子。り。水。鮎。潮。は。ひ。じ。

⑨ 内。の。是。と。切。流。し。漬。ふ。う。と。も。

⑩ 水。鮎。桶。水。と。さ。へ。魚。鮎。

⑪ 送。る。大。和。川。を。船。を。曳。乃。

⑫ 故。の。水。も。と。り。と。り。

⑬ 干。鱧。海。鱧。十。頭。つ。り。と。も。

⑭ 干。鰻。非。お。と。り。ぬ。け。り。

⑮ 魚。藻。下。り。の。春。秋。春。と。委。

⑯ 洗。鱸。川。に。在。り。の。と。佳。と。守。三。

⑰ 復。魚。軒。と。作。り。わ。ら。ひ。浄。免。

⑱ 鮎。名。物。江。州。の。鮎。濃。州。の。

⑳ 鮎。和。州。吉。野。鮎。是。と。釣。瓶。鮎。

㉑ 州。福。島。の。小。鮎。と。い。ふ。と。り。と。り。

㉒ 引。田。今。庄。の。鮎。と。い。ふ。等。

㉓ 名。物。乃。と。い。ふ。あり。

鹽漬シホヅク 或酒又糟漬シホヅクても可べし

鹽鳥賊シホトリ 異名 鱧魚 塩ばあいのシ

夏雜 此部ハ夏三ヶ月の種々の雜事とあり

短夜ミヤヨ 明安夜アカヨ 新古今 式内親王

風の音ふりて短夜とて涼しき夜

詞やくさす明安と池の江舟火

文周庭蚊の声。月うらやみ

連わたり心経をひきこえ宗牧

能よ下々ヨ日 蚊帳 蚊屋

枕のあけ梅船 蚊屋賣

能望の衆早うとて蚊帳外去流

世の中とてと扇 異名 氷鏡

夏几つとて扇 雪雀 回

颯 招涼 かいやう 風う州 たまき州

新古今 忠岑

夏さつらりあふと杖のたすきあを

つゆまじりなきよ毎んとすらん

詞風かこも月影をま月。夕まぐれ

ゆふさう。よるじり涼し。よはるは

祓の麻。まの杖をぬ。雪の文。

月あひさす。袖の月。夏の杖。杖か

夏掛とある

詩 扇五字對句

詩 全七字對句

掩笑頰歌扇 中散詩傳 画

迎歌 弄絃 將軍扇 賣書

詩 全七字對句

流風入坐飄歌扇 扇影飄

瀑水當階澣舞衣 逐酒來

勻粉時交合歡扇 共徘徊

追杯乍舉石榴裙 涼風前

伏翼 扇の翼と蝙蝠を見て

草子小まじらふ清少納言の枕

團扇 非 秋の夕暮居のたぐ

思ひと菴のうらみ抄那十

狂心かきまの都はたうら

をまの上をく風そよぶる湖松

詩團扇之詞 唐 劉禹錫

團扇復團扇奉君清暑殿

殿ニテ君ヲ御秋風吹庭樹從此

不相見ヨヨリトナサリ上有乘

鸞女蒼々華蟲編明年入懷

袖別是机中練

日傘

編笠

結夏

夏断

夏断

夏断

夏断

夏断

夏ありの内行状あり夏あり内佛花を供無縁の霊面

又聖經の類を書寫俗家も夏断といふ房華酒肉等慎む

者あり△安居といふ形心静攝安といふ要期此に住まふ居ま

新麥 早きころの八三月れまねるに泥物五六月の内迄

切麥 △冷麥○天寒の時ハ温飽をりちひ天

熱の節ハ冷麥成りちひちの制ハあるハ寒温の違ひのこ

煮冷 △冷汁○夏ハ食物又ハ汁をも器へ入

井水ハはあれたらうしひ入たうし食之にさぬとも云

麥飯 狂本付てさ位はもてるさる種ハ赤白真

麥粉 排 粒くの汗をいたく 麦粉を那 十

木布 布のいまきさきさるのをきさきさる

單物△汗衫 官家の下着とつろ

或ハ袖もたといふさつろ俗みよ襦袢なりたひなり

汗巾 △汗拭△汗手拭 汗をぬく小手巾なり又

夏の用具といつろ 排 ちふ事湯さしり汗拭 貞九

必用 此部ハ夏三月の入用の事と数多あつ

夏養生 素問云夏三月ハ蕃秀と云天地の氣交り萬

物繁茂と夜ハ時 早ハ起志とて怒事事なく英花とて秀とささめ

天氣とてハ以ませ得てハこれ夏ハ氣の應じり處也養生の道

○水とのこ水ハ洗浴と事と云○あ

石の上の坐臥さる事熱い處を

生れ冷をれん病を生ず○風は當て
財を奪ふれ風痺等の病を生ず

夏天氣

日蝕黄なる雨多き風多
○月量ある多き風多

夏風

夏風の中を吹萬物と長養
○夏火火生土と

土を生ずる土中央の位方角はと
つとも干支より成未の方と俗か

五月西として西風と雨とすりの時
節の火氣より火生土の土の方にて

吹風をりて○東風は常雨をな
るとつとも入梅の中土用は雨をな

然とも入り吹てきて風西は雨
とすり○南風は時の火と對する故雨

夏雲

風の方位はまがひて
とすり雨とあつて

夏霞

暮は西の方赤くして
南へ廻る日と秋

ふやうして西へ北まわると

